

## 笛吹市男女共同参画審議会 第1回審議会議事録（要旨）

日 時	令和2年12月23日（水）19:30～21:50	場所：笛吹市役所
出席者	審議会	今泉委員、小澤委員、小尾委員、菱山委員、三井委員、山内委員、渡辺委員（欠席：雨宮委員）
	笛吹市	雨宮部長、佐藤課長、宮澤リーダー、青山
	山梨総合研究所	山本、渡辺

**【次第】**

委嘱状交付式

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 閉会

第1回男女共同参画審議会

1. 開会
2. 審議会委員紹介
3. 職員紹介
4. 会長及び副会長の選任について
5. 諮問書送付
6. 議事
  - (1) 笛吹市男女共同参画審議会について
  - (2) 笛吹市における男女共同参画推進状況報告
  - (3) 第4次笛吹市男女共同参画計画について
7. 閉会

**【内容】**

委員、事務局紹介後、会長に山内幸雄委員、副会長に三井久美子委員を選出。  
会長、副会長がそれぞれあいさつ後、山下市長より諮問。

—————以下議事録—————

(1) 笛吹市男女共同参画審議会について

事務局：推進体制、審議会設置根拠(条例)、調査。審議事項、推進委員、推進本部、今後のスケジュール等を説明。

委員;意見なし

## (2) 笛吹市における男女共同参画推進状況報告

事務局より令和元年度の活動状況、数値等について説明

会長:基本目標のそれぞれについて抜粋し、説明があった。

男女共同参画は様々なセクションと関わっているが、大事なのがそれが男女共同参画の目線で書かれているかということ。

例えば基本目標Ⅲの「男女が健康で安心して暮らせるまちづくり」については、ただ単に身体健康というわけではなく、男女共同参画の視点から、性差がある中での健康という視点が必要になる。

同様に、基本目標Ⅳについては、議会傍聴人数が数値目標として書かれているが、男女別で数字を出す等が必要だ。

そういう目線、視点での数値での検証が必要だ。

委員:今、会長がおっしゃったように、男女参画という目線で見た場合、計画の中に数値目標があるはずであり、そこにどういう目標があり、どういう形で進んでいるのかを確認したうえで検証し、次のプランに向かっていくべきではないか。

事務局:会長指摘の議会傍聴の男女別の数については、議会事務局にも問い合わせたが、男女別の数は確認できなかった。

検証については、今は、実施状況報告として報告したところ。この後、計画の検証の中で、数値目標に対する検証をお示ししたい。

会長:人権教育については何をしているのか。

委員:子どもを対象にした活動を行っている。人権委員が紙芝居等で事例を出し、それについて話し合うといったことをしているが、今年はコロナのため一切の活動ができていない。

会長:人権委員が中心になって行っているということが分かった。主に子どもを対象にしていることもわかった。男女の人権の尊重という部分を中心に行ってほしいと思う。

## (3) 第4次笛吹市男女共同参画計画について

事務局より、計画策定の基本的事項、検証について説明

会長:今回、私は最初から関わっておらず、初めて見たので見方が大変だ。

P9の男性は仕事、女性は家庭という考え方については、そうは思わないが多く

なっているが、下のほうの言葉に「そのような中で、固定的役割の価値観をどのようにとらえるか、また、どのようにしたら異なる価値感をお互いに尊重することができるかが課題となります」という書き方は、異なる価値観を同じ方向を見られるよう是正していくのが男女共同だと思うが、この書き方でよいのか。こういう考えも認めるということか。

事務局:そういうことを是正していくための男女共同参画なので、書き方を考える。

会長:アンケートの見方としては、「そう思う」、「どちらかというと思う」が多い女性50代、60代に、男性は50代、60代、70代に訴求した施策を考えるといった形としなければならない、ということになるだろう。若者については、サンプル数が少ないため、今回はなんとも言えない。

会長:P19:基本目標3、「1.性に応じた心と身体の健康の推進」について確認したアンケート項目はあるか。

事務局:こちらは目標値として出したものなのでない。

会長:思春期うつ等、問題になっているものもある。先ほども話したように、各部署の数値目標をどのように男女共同の形にしていくかが重要だ。この観点を踏まえてアンケートにないのはいかなものか。

事務局:今回は逃してしまったが、次の機会にはアンケートにも組み入れていく形を考えていきたい。

委員:数値目標があったり、アンケートがあったり、ごちゃごちゃしていて分かりづらい。このまま計画に載せる予定か。アンケートならアンケートとして、まとめて結果を載せるべきなのではないか。

委員:私の息子のところにもアンケートが来た。一生懸命回答した。分からないところは私が少し教えながら回答した。その後、お礼状も届いたが、事情で回答できなかった人もいるだろう。アンケートがどういう形になったのかを知るためにも、アンケート結果がまとまっているほうがよいかと思う。

会長:P15の「課題4:家族経営における働きやすい就業環境の確保」についての書き方で、「このことから、家族経営協定に関する制度周知や活用促進が課題となります」という文言があるが、これは当たり前のことであって、これをどうするのが入っていない。どうなのか。

事務局:それは、これから説明する「施策の方向」の部分に入ってくる。

委員:一通り説明を聞いてからでどうか。

会長;では、その先の説明を。

事務局が第4次のプランの考え方等、取組について説明。

会長:何か意見は。

委員:推進委員会でもこのプランを見ていなかったもので、今回、見て少しショックだった。なぜ、ここまで女性が守られなければいけないのか。こんなに女性は弱いわけではない。男女それぞれやれることをやればよいと思っている。それがハーモニーという笛吹市のモットーであり、男性でも支援が必要な人もいる。そういうものを全体的に網羅した計画になるものだと思うのだが、これほど女性が馬鹿にされているのかとってしまうのだがいかがか。

委員:関連して、先ほどのアンケートについても、「男性は仕事、女性は家庭」といった文言を入れると、そう思っていなくても思ってしまう危険もある。今は、時代が変わっているので、そういう考えの人は少なくなっている。小学生をみても、保護者をみてもそうだ。こういう表現でアンケート調査をすることに疑問を感じる。

事務局:前回のアンケートと比較するためにも同じ設問とした。

委員:それなら、「はそういう傾向ではないが、前回の比較をする関係で同じ設問にした」といった文章を入れるべきだ。時代が変わっているのだから、変わっていることを前提にしたアンケートをとっていくべきだ。

事務局:今後、アンケートをとる際は検討する。

委員:「家族経営協定」とあるが、堅い表現。もっと取組やすくなるような、やわらかい形での表現でやり方等も工夫すべきではないか。

事務局:参考にさせていただく。

会長:資料3-2のP1「価値観の多様化を背景とした取組の推進」の中の「価値観へのアプローチ」について、「価値観が多様化し、男女差のある慣習が薄れる一方で」とあるが、慣習が薄れてよいものと、男女の区別があつてよいものがある。ひとまとめに書いてしまうのはどうか。検討してほしい。

事務局:検討する。

事務局:資料3の名簿について確認をお願いしたい。

委員:今後は資料を事前に送ってほしい。なお、会長には、事前に資料に目を通していただき、事務局と内容確認、進め方を打ち合わせたうえで進めていただきたい。、会長にそれをお願いしてもよろしいでしょうか。

会長:事務局から依頼されれば対応する。

事務局:ぜひよろしく願いさせていただきたい。

会長:任期は2年だが他に何をするのか。

事務局:計画策定後は、その後の進捗状況等についての検討、検証をしていただきたいと考えている。

会長:了解した。

以上